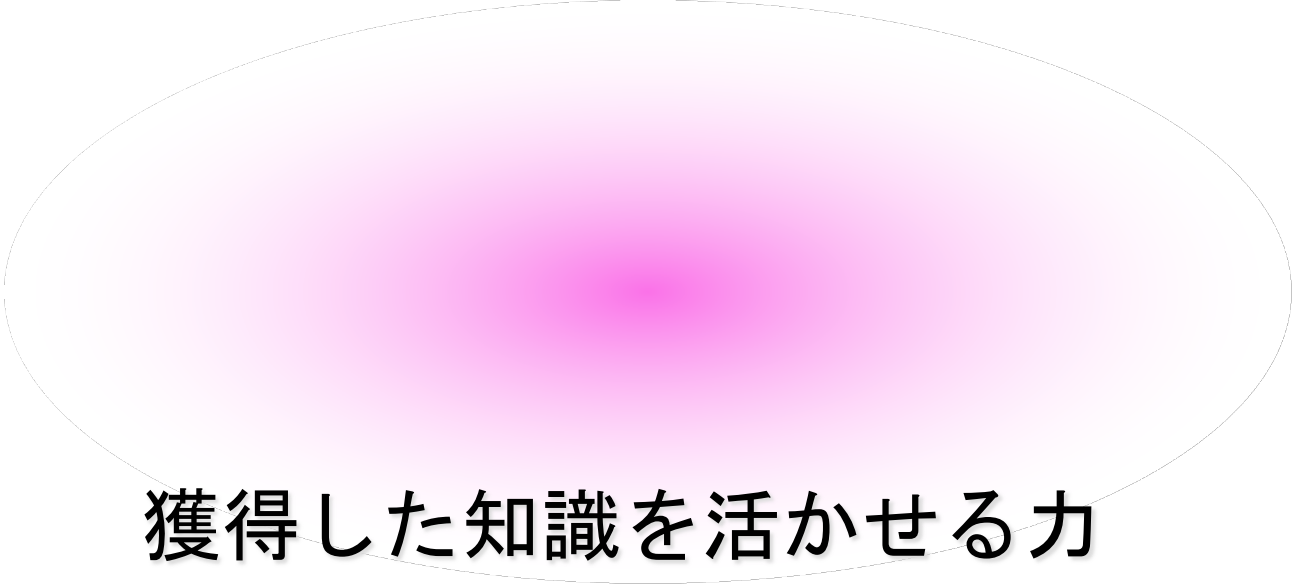


意志ある学び--未来教育

21世紀の学力/コンピテンシー



獲得した知識を活かせる力

鈴木敏恵

千葉大学教育学部特命教授
文部科学省委嘱事業/学力向上プラン-その道の達人派遣事業

OECD 国際的な教育変化

21世紀は変化と情報の時代

変化—事態への対応力

情報—見極める力・活用力

コンピテンシー (PISA/学力)

コンピテンシーとは？

■ これまでの教育 （部分知）

「知識がある」「わかった」「理解した」



■ これからの教育 （全体知・関係知）

「知識を課題解決に活用できる」

「わかったことを応用して使える」

「課題に気づき有効な行動ができる」

意志・俯瞰

状況理解

+

知識・スキル

化）
（現実には常に変

「コンピテンシー」

●コンピテンシー（Competency）評価手法●

----- 21 世紀教育へシフトする重要な鍵 -----

コンピテンシーを評価手法とする最大の特徴は「わかった、理解した、知識がある」ということでなく、現実にもその知識を活かして『行動出来る、表現に使える、説明できる、成果をあげた』など具体的に事実主体であるということです。ここに自分の仕事や学習のアウトカムがぎっしり詰まっているポートフォリオが不可欠なアイテムとなります。

コンピテンシーを評価に活かす視点

×→「知った」「理解した」「わかった」「知識がある」

○→「行動」「伝達」「記述表現できる」「成果をあげる」

コンピテンシーとは

コンピテンシーとは、できる人の「行動特性」。できる人（いい成果や業績を出し続ける人）を観察するとそこには強みとも言える特徴的な行動ややり方を発見することができます、それを見いだし箇条書き的にひとつひとつ明らかにすると、育成ポイントとして「身につけたい力」や「評価の観点」として活用できます。コンピテンシーは目に見える能力として客観性が明確なこともあり、先端企業の人事評価や能力開発や人材育成、採用面接などに使われています。

<コンピテンシーとは>

- ☐ 知識を行動に変えて使える能力
- ☐ 人材育成・能力開発・人事評価に活用できるもの
- ☐ 教育や研修で伸ばすことができるもの

<コンピテンシー評価の観点例>

- ☐ （知ったことを）他の人に伝えることができる
- ☐ （自分が理解したことを）記述して表現できる
- ☐ （その知識を活かし）いい成果をあげた

コンピテンシー手法の特徴

コンピテンシーは机上にある抽象的なものではありません。それは現実に関することが前提。コンピテンシーは「できた、できない」でなく「身につけるもの」ですから、ここまでできればいい、という範囲やラインはなく、より高いものを極める意識がベースにあるものなのです。

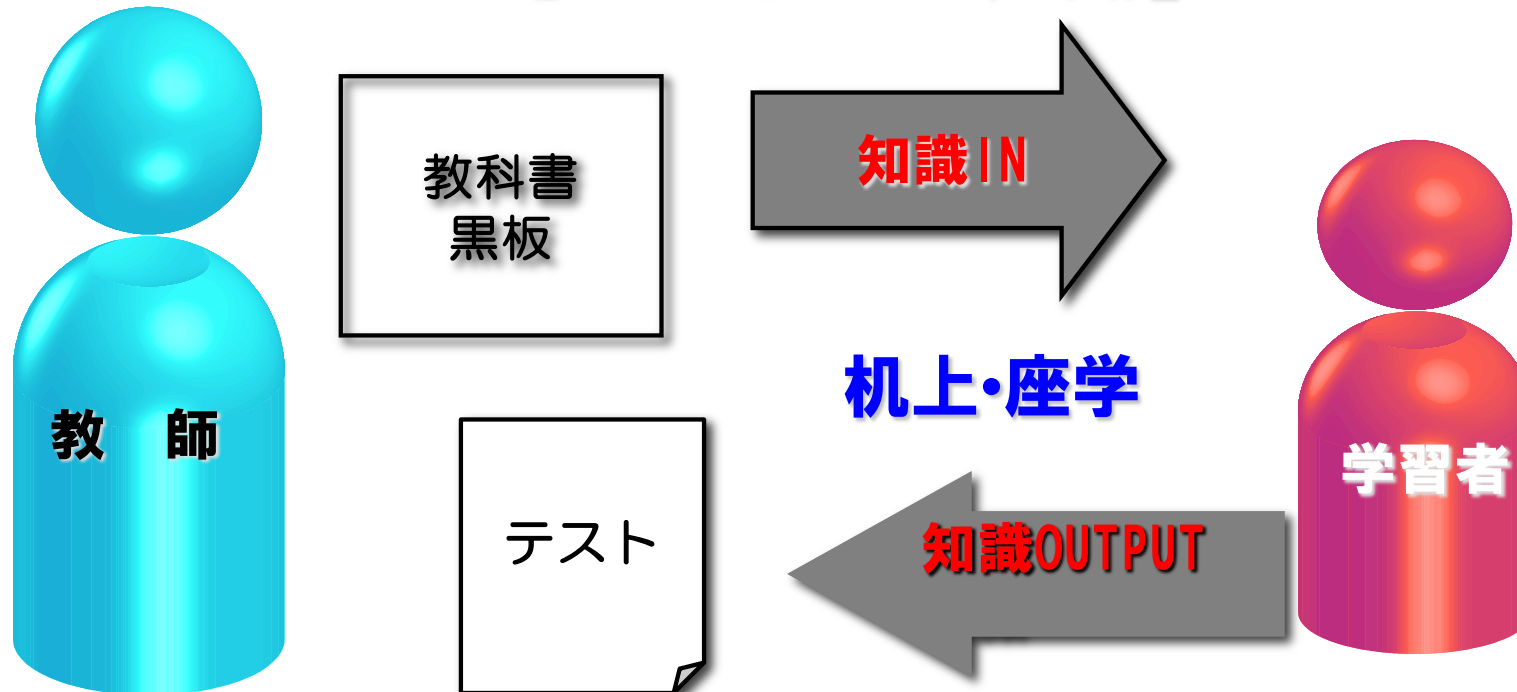
コンピテンシー育成の条件

コンピテンシー育成の鍵は、顕在化・事実・現実・行動・具体的ということ。ポートフォリオがこれらを可能とさせます。ポートフォリオにはコンピテンシーが客観的に証明できる根拠が入っているのでフェアな評価が叶い易いのです。ポートフォリオは結果や部分でなく「プロセス」や全体成果に価値をおいています。この点も長期的な人材育成をねらうコンピテンシー育成に共通するところです。

コンピテンシーを育成するための必須条件は、コンピテンシーを発揮できる場面（プレゼンテーションや論文発表等）を組み込むことです。成果を表せる全体プランの設計が大事です。

これまで教育

与えられた「知識」



ペーパーテストで評価される「知識」

これからの教育

21世紀の学力/コンピテンシー

現実
世の中
ネット
文献
教育
プロ
生活
体験



プロジェクト学習 + ポートフォリオ活用

意志ある学び--未来教育

プロジェクト
学習

全体知

ポートフォリオ
活用

俯瞰

鈴木 敏恵

未来教育シンクタンク
千葉大学教育学部特命教授
中部学院大学客員教授

Copyright © 2006 未来教育プロ
ジェクト 鈴木敏恵 All Rights
Reserved

(C) 2006 鈴木敏恵の未来教育プロジェクト

意志ある学び



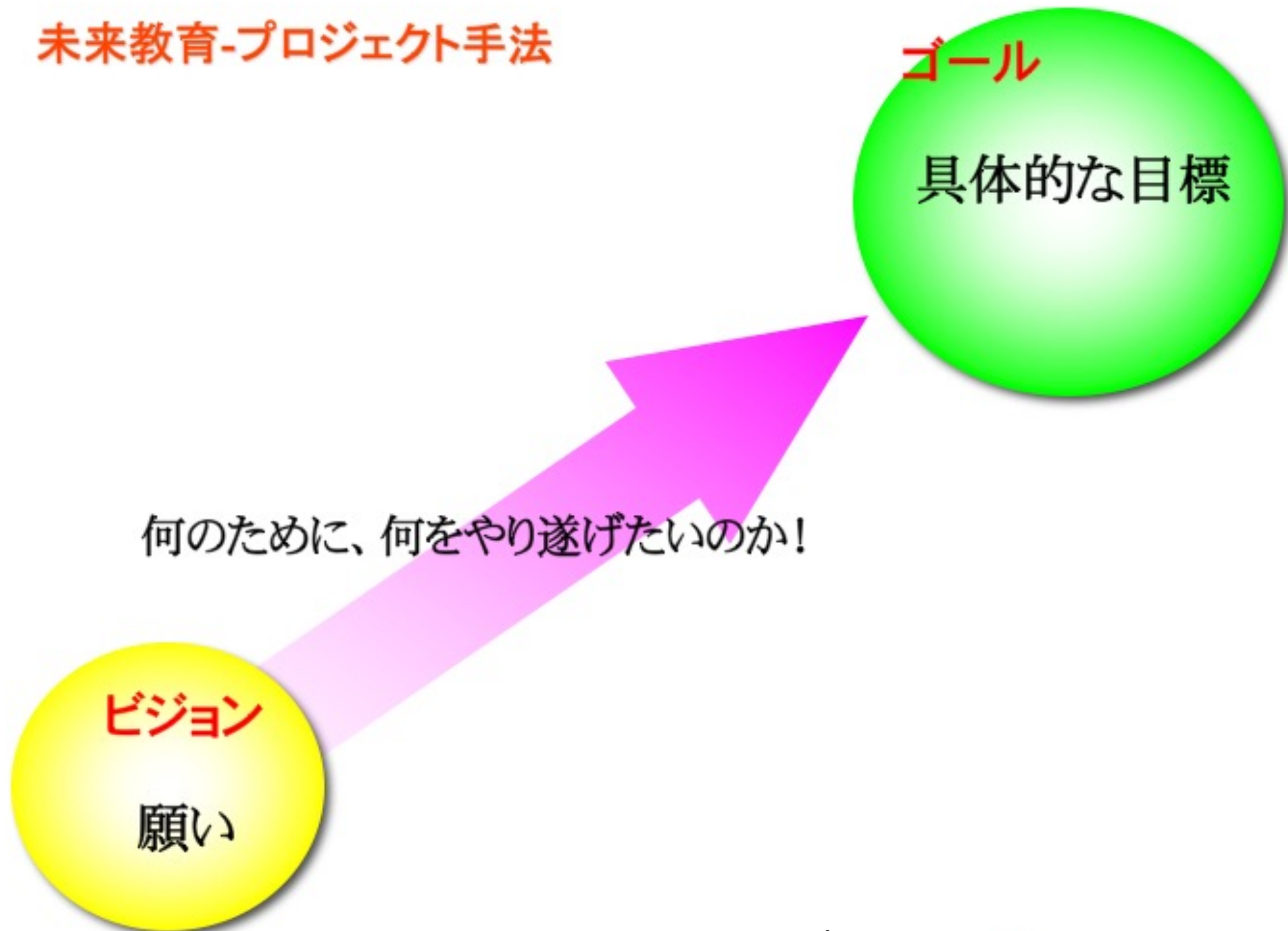
プロジェクト学習



コンピテンシー(知識やスキルを活かす力)

(C) 2006 鈴木敏恵の未来教育プロジェクト

未来教育-プロジェクト手法



プロジェクトを成功させるコーチング

◆目的 ・ ・ 「願いはなに？」

「〇〇のために〇〇したい」

◆目標 ・ ・ 「そのために具体的に何を目標にしますか？」

「〇〇〇〇をする！」

「〇〇〇〇を生み出す！」

「〇〇〇〇を達成する！」

◆戦略 ・ ・ 「そのためにすべきことはなんですか？」
「それはどんな方法でしますか？」
・ ・ 「一番、優先すべきことは何？」

◆目的 ・ ・ 「何のためにするの？」



プロジェクト= 価値ある何かを成す！

プロジェクトとは、現実への挑戦

プロジェクトとは、未来をよくするもの

プロジェクトとは、夢を叶えること！

ビジョンとゴールを明確に



未来教育-プロジェクト手法

ビジョンとゴールを明確にして高い成果をあげる手法

現実と対座し課題発見し課題解決策を生みだし

成果をあげるゴール(目標)を目指すもの

ゴール

他者に役立つ

「知の成果」

プロセスで成長する

必要な能力(身につく力)



目標設定力

課題発見力

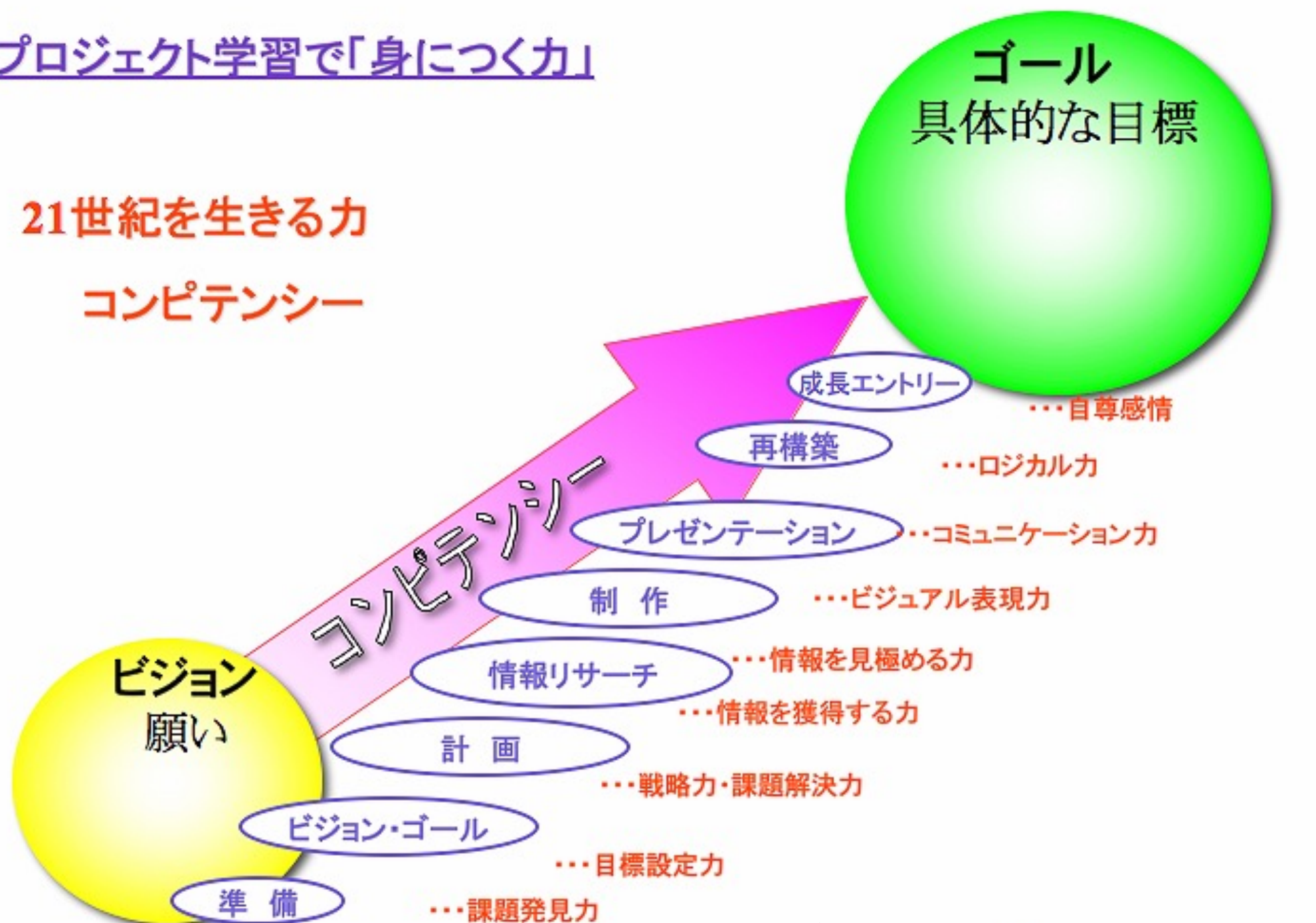
課題解決力

ビジョン

願い

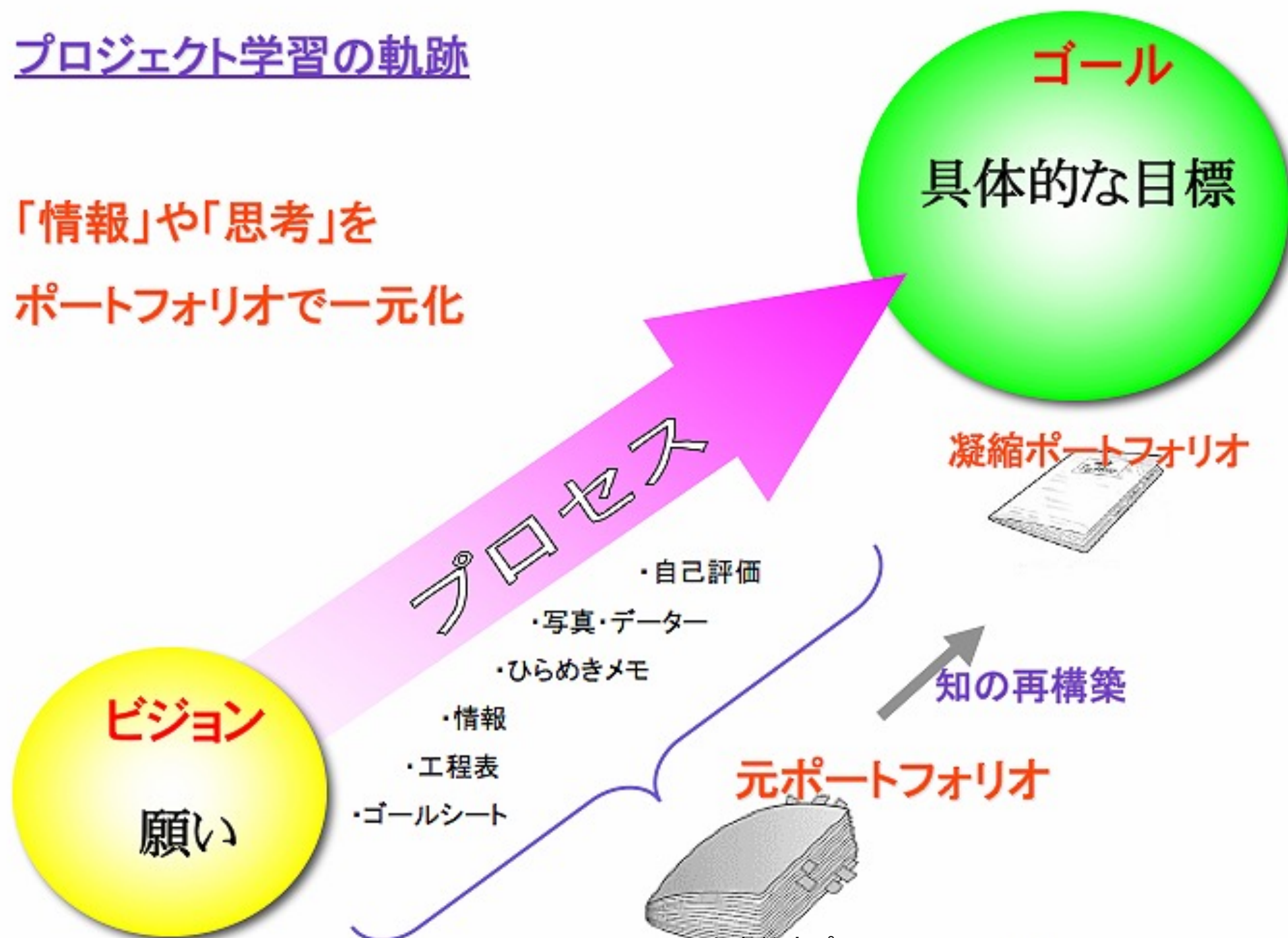
プロジェクト学習で「身につく力」

21世紀を生きる力
コンピテンシー



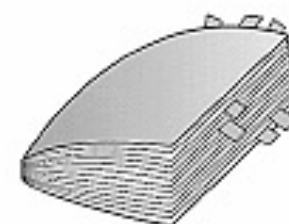
プロジェクト学習の軌跡

「情報」や「思考」を
ポートフォリオで一元化



ポートフォリオとは何か

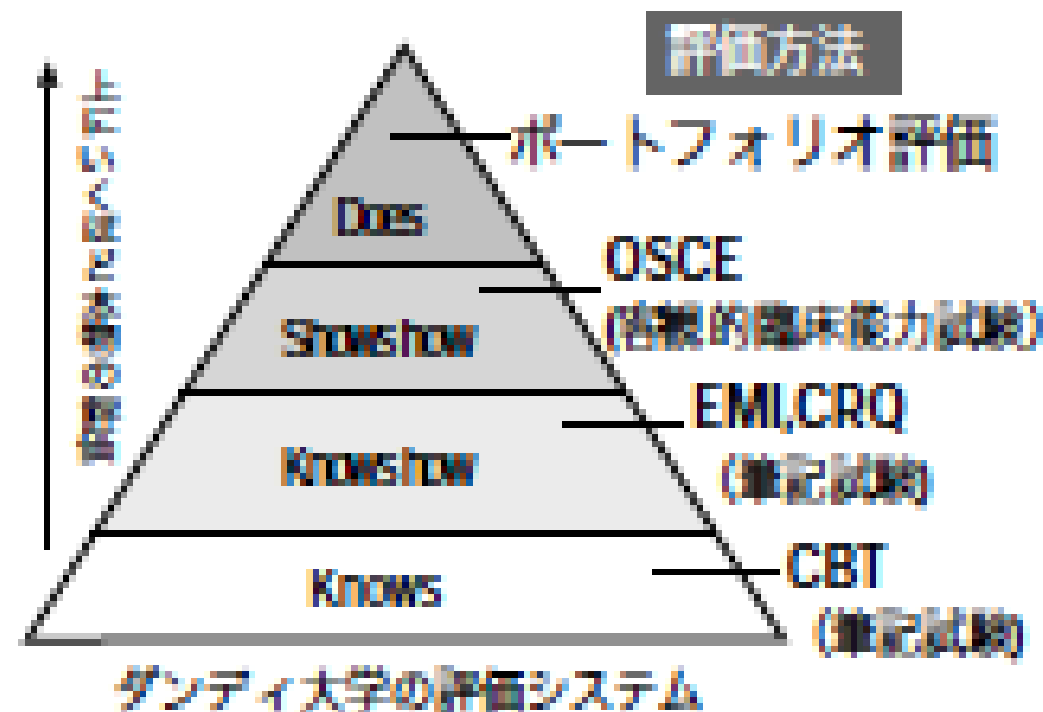
ポートフォリオの意味



- 意味：紙ばさみ・作品集・活動や実績ファイル
- ポートフォリオとはバラバラの「情報を一元化」

ポートフォリオの価値（成長評価）

- 「情報を一元化」すると価値が生まれる！
- 俯瞰 = プロセス、成果、成長、知の体系化
- 可視化 = 思考特性、能力、実力（コンピテンシー）



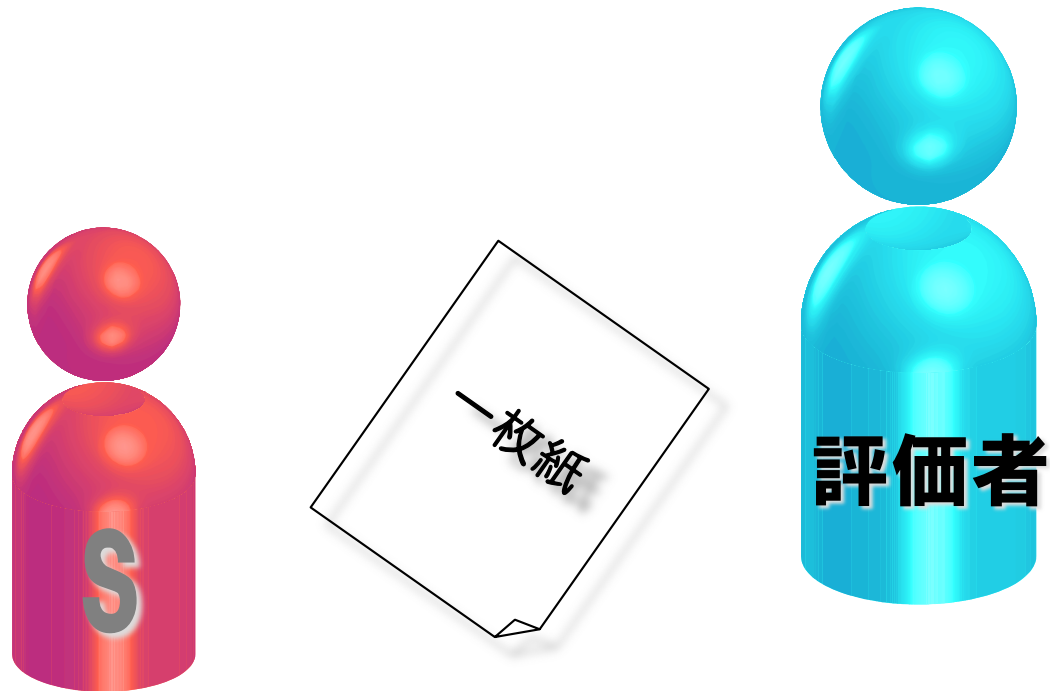
米国のDr.Millerが1990年に提案した能力ピラミッドとその評価を示したもの。ピラミッドの上を評価する程、より本物の評価となる。基本的な医学知識は筆記試験で評価できるが何をしてきたのかを評価するにはポートフォリオがないと評価できない。

(医学界新聞第2530号2003年4月7日 久留米大学医学部教授古田一郎氏報告記事より)

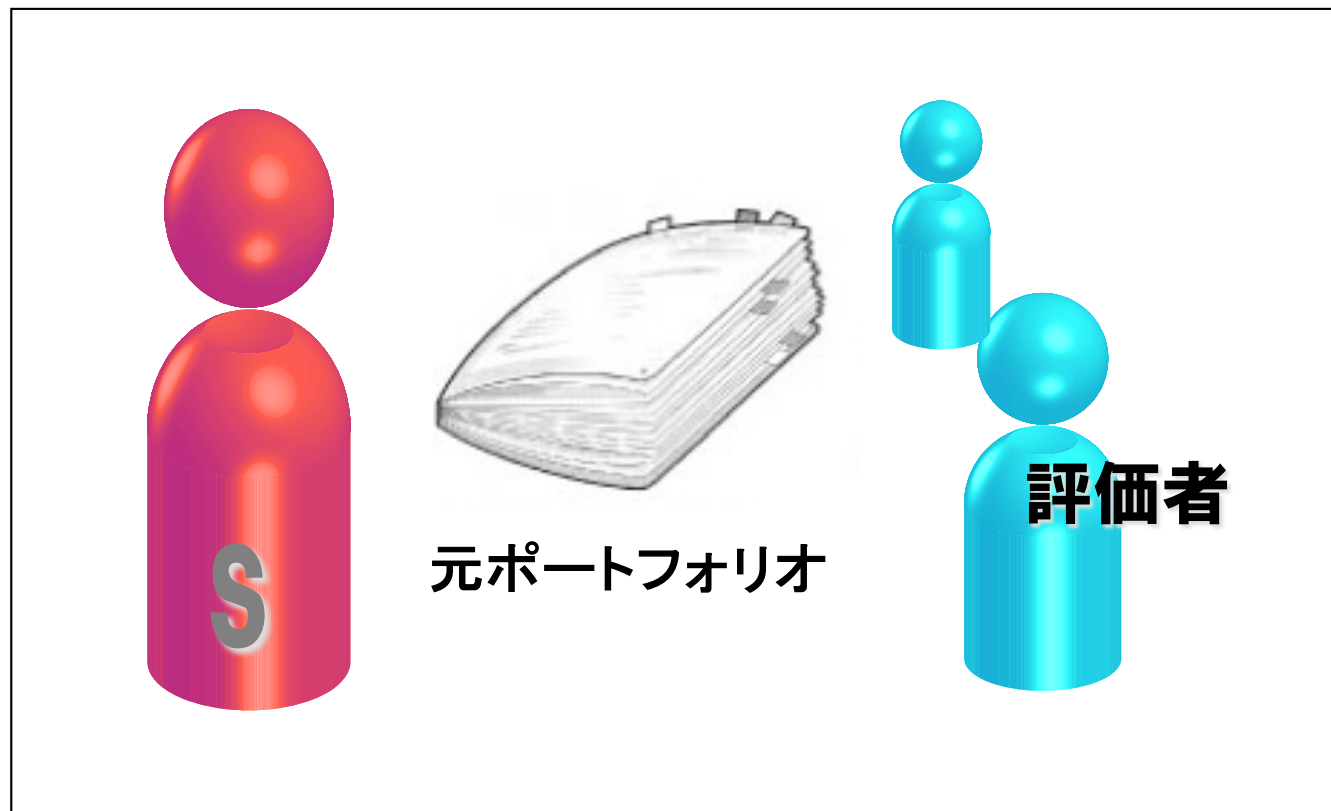
英国では、卒業試験では外部者の評価とともにポートフォリオ評価を施行している。そのため、医師国家試験は行っていない。米国でも医師国家試験にCBT、OSCEに引き続き、ポートフォリオ評価の導入を準備中であるという。

医学教育の最高峰イギリスのダンディ大学で活用されている評価は、以下のようなシステムになっている。

テストや定型記入で評価する



「ポートフォリオ」を活かした評価



未来教育--ポートフォリオの種類と目的

ポートフォリオはプロジェクト学習だけでなく、よりよき未来の実現を願うすべての人のすべての状況に機能する。その目的により次の3つに大きくわけることができる。

■目的

- ・クオリティーの高い成果
- ・コンピテンシー修得
- ・目標到達/戦略/自己評価

■対応領域

- ・一般教科/総合学習
- ・プロジェクト学習
- ・体験学習
- ・臨床研修/現場実習
- ・継続教育
- ・目標管理
- ・クリニカルラダー
- ・認定看護師

パーソナル ポートフォリオ

入れるモノ: 関心・実績

■目的

- ・自己受容/自尊感情
- ・キャリアマネジメント
- ・自己能力のプレゼンテーション

■対応領域

- ・個性発見/進路設計/進路選択
- ・採用面接/人事考査
- ・目標管理
- ・キャリアパス
- ・チームビルディング
- ・臨床研修/認定看護師...etc

テーマ ポートフォリオ

入れるモノ: 仕事・学習

ライフ ポートフォリオ

入れるモノ: 体・健康

■目的

- ・自立
- ・セルフマネジメント
- ・健康管理/生活改善

■対応領域

- ・生活習慣病(糖尿病...etc)
- ・医師との情報共有
- ・チーム医療
- ・在宅看護...etc

ポートフォリオとは: 自らの意志で、自らの成果や自ら手に入れた情報を一元化したもの。

人間の成長とポートフォリオ

様々な場面で役立つポートフォリオ



小学校 中学校

高校

専門学校

大学

職業

企業人

プロフェッショナル

研究者

専門家



教科学習

プロジェクト学習



個性発見

進路選択



評価

AO入試

採用面接

人事



研究

目標達成

キャリアアップ

ポートフォリオは「成長したい、願いを叶えたい」というすべての人に役立つ

(C)鈴木敏恵の未来教育プロジェクト All right reserved.

